



(参考仮訳)

プレスリリース No. 12/160
即時解禁
2012年5月7日

国際通貨基金 (IMF)
米国・ワシントン DC

クリスティーヌ・ラガルド IMF 専務理事、 一段と高くより良い持続的な経済成長に向け、安定性を確保するよう求める

国際通貨基金 (IMF) のクリスティーヌ・ラガルド専務理事は、本日、堅固で持続的かつ均衡ある成長の回復が、現在世界が直面している課題だと指摘するとともに、適切なペースで、各国各々の状況を反映した信頼に足る財政調整プログラムを、成長と雇用の拡大のための改革とともに実施することが重要だと強調した。

同氏は「一段と高くより良い持続的な経済成長に向けた安定性の確保」と題された演説のなかで「今日の世界経済には、より高くより良い成長が必要であることは明らかだ。そして、その実現は、適切な政策の組み合わせの選択にかかっている。選択を誤れば、成長の『失われた 10 年』に突入し、青年層を失い、世界経済をより堅牢な基盤に乗せる為の機会を失う危険性がある」と述べた。

IMF は、現在のところ今年の世界経済成長率を、約 3.5%と予測している。

2012 年、先進国・地域では、ユーロ圏が緩やかながらも景気後退局面に入るなど、成長率はこれより遥かに弱い 1.5%にとどまると予想している。

一方、新興市場および途上国では、5.75%が予測されるなど、先進国に比べ良い状態にある。しかし、若者 7,500 万人をはじめ、失業者数は全世界で 2 億人といわれている。同氏は「これは、経済、社会、そして人に、大きな悲劇をもたらす可能性がある」と注意を促した。

「先進国・地域、とりわけ欧州では、この点について広く理解されているが、その対策については大きく見解が分かれている。成長か緊縮か、二つのうち一つを選択する傾向にあるようだ。成長を重視する人々は、成長の促進には政府による刺激策がさらに必要だと言う。一方、緊縮を重視する人々は、市場は、莫大な公的債務を

批判しており、政府は出来るだけ早く債務を削減するために必要な手段を講じるべきだとしている」

ラガルド氏は「これは、若干極端とも言えるが、周知のとおり、緊縮か成長かの議論は、頻繁に行われている」と述べたが「私は、これは間違った議論だと思っている。これは『二者択一』の問題ではないと考えている。各国は、安定性と成長のためになり今日のためそして明日のためになる、戦略を策定することができる」と付け加えた。

また、非常に緩和的な金融政策により、通常は大きく需要が伸びるだろうが「今は平時ではない」と述べた。「金融面でのエンジンだけでは不十分だ。実際、財政調整、弱い銀行、弱い住宅市場という三つのシステム上の『ブレーキ』が、成長の足かせとなっている」

先進国の中で、債務の対 GDP 比が 2013 年には 109%に達すると予測される。これは、第二次世界大戦後最大の数字であり、「この数字を引き下げなければならない」と同専務理事は述べた。「同時に、緊縮財政が成長の足かせになることは分かっており、その影響は景気後退局面ではさらに悪いものとなる。すなわち、適切なペースが全てであり、適切なペースは国の状況により異なるものになるだろう」

ラガルド氏は「各国は引き続きしっかりと操縦しなければならない。成長が予測を下回るのであれば、発表済みの、財政ターゲットではなく財政措置の実施に努めるべきだ。言い換えるならば、経済の低迷のみを原因とした税収の落ち込みや支出の拡大に逆らうべきではない」と述べた。「財政調整というブレーキを避けることはできないが、正しく調整するならば、成長を大きく損なうことがないようにすることができる」。弱い銀行および弱い住宅市場という他の二つのブレーキについては、国および地域レベルで取り組みを継続しなければならない。

また、ラガルド氏は、南欧など貿易パートナーと比較し競争力を失った国々をはじめ各国に対し、製品市場と労働市場の改善のための改革を実施するよう求めた。

「中期的に、改革の効果を期待することができるだろう」と述べるとともに「IMF のユーロ圏各国に関する予備的分析は、大々的な製品市場、労働、そして年金改革は、5年で GDP を 4.5%押し上げる可能性があることを示している。またこれは、タイミングを合わせて取り組みを行うことでプラスの影響が高まることも一部反映しており、皆が一体となり取り組む重要性を示している」と指摘した。

またラガルド氏は、世界経済のリバランス（再調整）、金融部門改革、および国際

金融のセーフティネットといった、様々な分野での経済協力を強化するよう求めた。